

# 梶山歴史文化館ニュース

Vol. 19

2018. 7. 4

## ■ ■ ■ 自校の歴史にふれること ■ ■ ■

歴史文化館館長 梶山美恵子

歴史文化館では昨年度から大学の自校史教育の一環として「ワークシート」に取り組むという課題に協力しています。自分の考えを記述するページには、自校の歴史に触れた感想が様々な表現で綴られています。「・・・本当に歴史のある学校であることを再認識できてよかった・・・この大学に合格してよかった・・・このような歴史的な資料がまだ残っていることに感動した・・・梶山の教育理念は少し難しいけれどカッコいいなと思った・・・金剛鐘のメロディーが生演奏なんて梶山の人達は幸せだなって思った・・・これから梶山女学園大学の卒業生と堂々と名乗れるような人間になりたいと思った・・・」等々、ほとんどの学生が何か大切なことを感じ取ってくれているようです。

中高や小学校でも自校について学ぶ機会が増えてきました。各自が自校の歴史を通して学んだことや感じたことを、今後につなげていくよう期待したいと思います。

## 小学校春の遠足 歴史文化館の見学を引率して

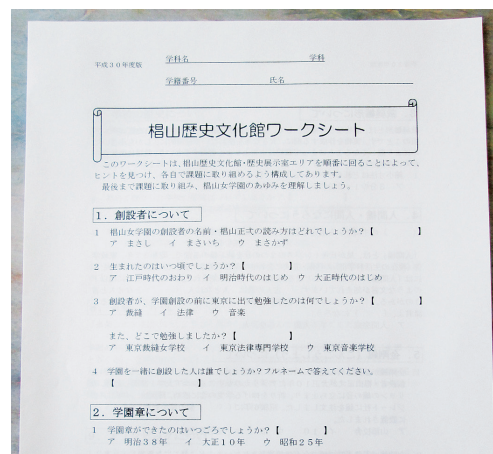
梶山女学園大学附属小学校 川野幸彦

4月27日（金）、梶山女学園大学附属小学校の3・4年生が、歴史文化館を見学させていただきました。訪れた子供たちは、「えっ！今、小学校があるところって、昔は、こんなところだったの？」とか、「昔の女学校の制服って、着物だったの？百人一首のかるた取りするときの恰好みたいだね。」とか、「前畑さんも、中高（中学高校）のプールで毎日頑張っていたんだね。」などと話しながら、楽しそうに見学していました。学園の歴史に触れ、大変興味をもって見学している様子が伝わってきました。以下は、見学した翌日に提出された児童の日記文の一部です。



「梶山大学の星が丘キャンパスに行きました。梶山大学の歴史文化館が一番面白かったです。昔の（小学校の）制服がピンク色だったことに驚きました。さらに、男女共学の時もあったらしいです。梶山正式先生の家まで再現されていました。とても、昔っぽかったです。」

この文章から、子供たちにとって大変思い出深い一日になったことがよくわかります。きっと、こうした学習が、子供たちの学園生活を、さらに豊かなものにしていくことでしょう。今後がますます楽しみです。



歴史文化館ワークシート

4ページだてのうち1ページ目



## ■ 金剛鐘 - 各学校では - ■

学園のシンボルである金剛鐘（10個の鐘から構成されるカリヨンという楽器）は、大正6年に設置されてから今年で88年の間奏でられていますが、いま保育園から大学までの各学校で、金剛鐘はどのように聴かれているのでしょうか。



金剛鐘が設置されている中高では、毎朝始業時（8時30分）に生徒の手で金剛鐘が奏鳴され、金剛塔から流れ出る鐘の音を全校生徒が教室で静聴します。

保育園では、朝8時30分に中高から金剛鐘の音が流れてくると、園児はウッドデッキに走り出て座り、保育士の姿を真似て頭を下げ耳を澄ませます。

幼稚園では、金剛鐘の奏鳴時間と登園時間がずれているため直接聴くことはできませんが、園歌である「金剛鐘が鳴っている」の「金剛鐘」とは何なのかを知るために、毎年、年長児が全員金剛塔まで登って、実際の鐘を見学します。

小学校では毎朝始業時（8時25分）に、金剛鐘のCDか、または6年生6名ほどのハンドベルの生演奏で金剛鐘のメロディーが放送で流され、月曜日の全校朝礼時は体育館で、その他の日は教室で静聴します。

大学では、毎朝9時7分から図書館棟の旧金剛塔から、録音による金剛鐘の放送が始まり、演奏が終わると1時間目の授業開始時間になるよう設定されています。放送は外に向けてキャンパス全体に周囲に配慮して音量を押さえて流しているため、各学部の校舎では、窓を開けないと演奏を聞くことは困難な状況です。また、この時間帯にキャンパスを通らない場合には聴くチャンスがありません。

この旧金剛塔は、山添キャンパスの初代校舎に設置されていたもので、星が丘キャンパスに移築復元され、現在は、歴史文化館の「正式記念室」として活用されています。その内部は、かつては金剛鐘が設置され、演奏されていた場所ですが、そのことを想像するのは難しいものがありました。

今回、歴史文化館専門委員である文化情報学部の見田隆鑑准教授の協力により、金剛鐘を演奏している場面と設置されている様子の大型写真パネルを設置しました。また、演奏方法などを説明した解説パネルも同時に設置しました。さらに、金剛鐘を聴くことができるように機器を設置しました。これにより、歴史文化館の見学者が常時金剛鐘に接することができるようになりました。



旧金剛塔内部のパネル



旧金剛塔入口のパネル

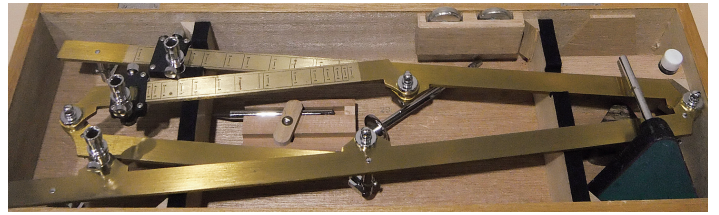


## ■ 企画展「測る～美しさと着やすさを求めて～」学生感想から ■

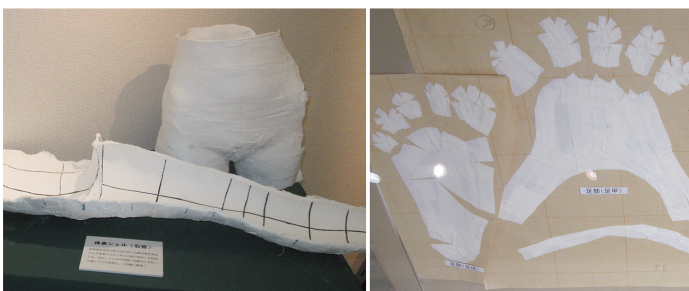
2017年11月8日～2018年6月29日まで行われた企画展「測る～美しさと着やすさを求めて～」の展示物について学生たちの感想の一部を紹介します。

### <ペンタグラム>

“ペンタグラム”という図形や文字を拡大するときに使われたという機械が現在のコピー機のような役割をしていたということに興味をもちました。なぜなら今だと簡単に拡大ができますが、ペンタグラムは拡大するのに大変そうだったからです。触ったことはありませんが機会があったら実際に拡大してみたいです。衣服を美しく着るためにも「測る」という作業は欠かせない工程だと感じました。



### <体表シェル>



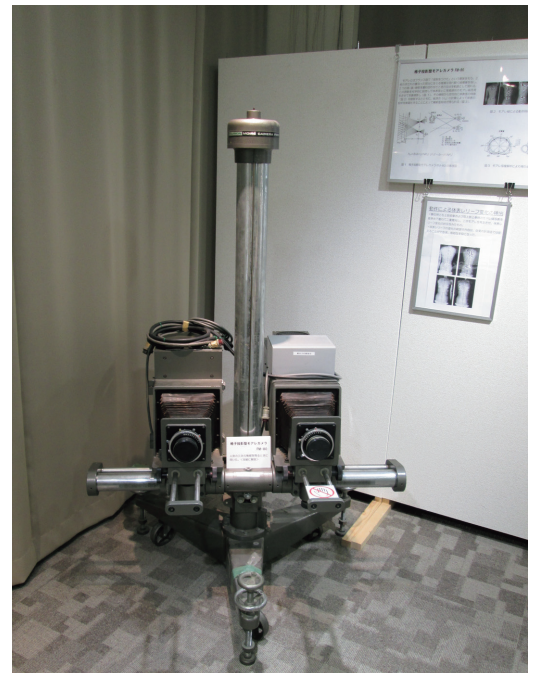
体表シェルというものは初めて見て、かつ存在を知った。衣服の作り方さえ、よく知らなかったのだが、解説の記述に心が躍らされた。もっと、どういうことなのか知りたいと思った。

直接和紙やサージカルテープなどを貼付して体の大きさを測ることに驚いた。また、他にも多くの道具があり、裁縫の専門性の高さに感心しました。

### <格子投影モアレカメラ（FM-80人体の三次元情報を得るときに用いた）>

私はこのカメラを初めて見ました。いろいろな動作をしたときにどう体表レリーフが変化するかを観察するための機械だと分かりました。

同じような動作でも、腕を上げているかいらないかだけのちがいや、撮影する方向のちがいで、観察される体表レリーフが全然違うことが分かり、このカメラの役割はとても大切だと感じました。またこのカメラから服1枚を作る難しさが分かりました。



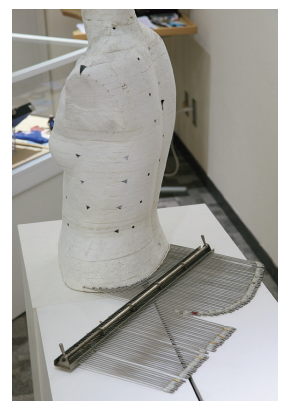
### <皮膚温度計>

服を作るのにもスカート丈マーカ、皮膚温度計、アントロポメーター（身長計）、スチールメジャーなどのさまざまな道具が必要だと感じた。特に皮膚温度計は衣服の形態やゆとり量、素材が保温上適切であるかを判断するためのものと知り、衣服を作るには体温までも考えなければならないのだと思いました。



### <スライディングゲージ（人体の断面形状を計測するとき用いた）>

測るのではなく、棒が自由に動くことで、自動的にできることがすごいと思いました。その他に、パンツの強度確認をするための機械など、ミシン目を数えるタユマシーンとかがあって、昔の人はすごいことを考えるんだと感心しました。



## ■ 雛形コレクション発行準備着々 ■

裁縫雛形とは、椋山正式学園創設者が学園創設の前に3年間学んだ東京裁縫女学校（現東京家政大学）の創設者である渡邊辰五郎氏によって考案された実寸大の正確な縮尺で製作されている授業創作物です。本学園でも明治から昭和初期にかけて裁縫授業に取り入れられ、歴史文化館所蔵の卒業生の製作物は約550点あります。

歴史文化館では、ここ数年、その整理・研究・デジタル化に取り組んできました。今年度末には冊子として椋山のコレクションをまとめることが出来そうです。その準備の状況をお伝えします。

### 裁縫雛形の再撮影

歴史文化館専門委員・現代マネジメント学部准教授 三木邦弘

雛形の資料作成のために雛形の撮影を開始したのは2011年2月でした。取りあえず現状のままで撮影することにし、背景はなんとなく白色にしました。一人で撮影したため全ての撮影が終わったのは2013年11月でした。その後雛形の資料集の出版を行うことになり、再度撮影を行うことになりました。

雛形の整理の段階では識別のために必要だった札も、付いていない状態の写真が望ましく、多数を占める白い雛形が白い背景では見えにくいいため、グレーの背景にしました。またカメラをより解像度の高いものにし、カラーチャートの位置も左下側に統一し、資料集には図面（こちらは生活科学部の阿部順子准教授が同学部の学生に手伝ってもらって清書・デジタル化をしています。）も付くので、できるだけそれと同じ形になるように撮影しています。紐などに折り癖がついており、図面通りの形にするのに30分以上かかったこともあります。あまり時間もないため、再撮影は



最初の撮影



再撮影

文化情報学部の学生に手伝ってもらうことにしました。

2017年8月より開始し、2018年6月にはほぼ全ての雛形の再撮影が終わる予定です。

撮影した写真画像は、これまでの写真と同様にデータベースに登録しています。雛形の写真、雛形の図面、説明文は全てデータベースにあるので、資料集の原稿ファイルを生成するプログラムを作成しています。限られた紙面に写真・図面・説明をバランスよく詰め込むのは難しく、印刷見本を作成しては関係者に見せて、ご意見を頂いてプログラムの改良を進めています。



裁縫雛形研究員の元生活科学部教授 中保淑子さんと加藤雪枝さん

### 編集後記

「測る～美しさと着やすさを求めて～」の企画展では多くの方に足をお運びいただきました。ご協力くださった先生方、学生の皆様に御礼申し上げます。現在、企画展「生活環境デザイン学科 卒業研究作品展」を開催中です。足をお運びいただければ幸いです。

### 椋山歴史文化館ニュース 第19号

発行日 2018年（平成30年）7月4日

編集・発行 椋山女学園歴史文化館

名古屋市千種区星が丘元町17番3号

TEL 052（781）1186（代）

052（781）4590（直）

編集担当者 椋山美恵子 村瀬輝恭 村瀬示帆 原田和美